

香末を食ふ

古代の天香

芬香の外用

と側の者に語つた。合徳は西施のやうに天香を備へてゐたのであらう。合徳から飛燕に贈つた品物の中に、九眞香・青木香・沈水香があつた。合徳は常に九眞沈水の香に沐し、飛燕は五蘊七香湯に浴してゐた。飛燕の體に異香ありとは、外から借りた香であつたらう。唐の元載の愛妃薛瑶英は、幼い時から香末を飲食物に混へて食つてゐた、之がため成育した後まで肌が香しかつたと『麗情集』に見えて居る。眞か。

麗娟（漢の武帝の美人）は吹く氣が蘭の如く、旋娟（燕の昭王の美人）は體軽く氣馥しく、共に絶代の尤物とされた。青琴、宓妃、昌容、絳樹、毛嬙などは、人か仙か、古美人中の代表者であるが、皆天香を有する者であつた。

美人の肌膚の輕盈と薰香とを愛したことは、耽溺人種だけに甚しいものであつた。併し容易に天香は得られない。そこで諸種の香を佩び、又衣服を薰灼して、外から芬香を借つた。最も古い時代には蘭の花を佩びた。鄭の文公の愛姬燕姑は、天使から蘭を賜はつた夢を見たゞけで公の寵幸を受けた。

「影娥池中に女香樹あり。細枝葉、婦人之を帯ぶれば終年減せず。」（洞冥記）

「漢の武帝夢む、李夫人帝に薔蕪之香を授くと。驚き起つて香氣なほ衣枕に著く。」（拾

遺記）

尙香郎の佩

これによつて艸木の香あるものを佩びたことが解る。之は女子のみでなく、宮中に奉仕する男は皆佩用したらしい。『漢宮儀』に

「尙書郎は鷄舌香を含み、伏して事を奏す。故に香を懷き蘭を握り、丹墀を趨走すと稱す。」

とある。尙書郎は尙書省（今の内閣）の屬官で執奏など掌るから、香を含んだものである。鷄舌香は丁香と同種の香木から採る。男でさへさうであるから、美人には特に香氣を尊んだ。人情今日と變りはない。

四氣香と四美人

鬱金香

吳の孫亮は、愛姬四人に四氣香を焚き占めさせたので、歩むところ、坐するところ悉く香氣が衣を徹した。百度濯いでも歇まぬから百濯香と名づけ、又四人の美人名によつて朝妹香、麗居香、洛珍香、潔華香と呼び、宴遊毎に四人皆輦輿を同じうして側に侍つた。香は身體衣服のみでなく、帷幄被衾の類にまで濺いだものである。

「雙燕雙飛・畫梁を繞り、

羅帷翠被・鬱金香。」（盧照鄰）

鬱金香は大秦地方に生じて鬱金草から取る名香である。李白は「蘭陵の美酒鬱金香」と

肌香佩薰

美人の要素

詠じて居る。これは酒の香に喩へたものである。

五三二

支那後宮秘史終

昭和五年三月十八日印
昭和五年三月二十一日發
昭和五年三月三十日再

刷行版

(支那後宮秘史)

定價貳圓七拾錢

著作者

濱本鶴賓

發行者

東京市日本橋區通三丁目八番地
和田利彦

整版者

東京市神田區鎌倉町五番地
新倉東文堂

著者作檢印



發行所

東京市日本橋區通三丁目八番地
春陽堂

電話日本橋
三六五
三七四
振替東京
一六一七

川安印刷所印刷

濱本鶴賓著

特製鳥子紙
本版刷美本

□價貳圓七拾錢
□送料拾八錢

新選 支那情愛文獻

上下四千載、明暗表裏の極端に背離矛盾する支那國民は、殊にその情炎の世界に於て、驚くべき迷宮の蠱惑に溢れてゐる。秦殿吳宮の榮華、猥紅倚翠の享樂、甚しきは獸性の邪淫にまで墮し、癡爛本能の限りなき奔出これこそ變轉極なき治亂興亡の根源であつた。支那に關する最高權威なる著者は、博引多識の全蘊蓄を傾け、確乎たる史實による情慾の暴露は、泰西のそれを遙かに壓倒せる支那の真相であり、またその艶麗無比なる情愛の大饗宴である。實に現代支那の謎もまたこれによつて解かれん。試みに店頭之を開け、内容の豊富なる實に貳拾八章、四百五拾項目の盛觀!!

東通 京三 日本 橋目 春陽 堂 振替 東一 京七

上村行彰著

小村雪岱畫伯裝
木版手刷極美本

□價參圓五拾錢
□送料拾八錢

日本遊里史

社會の神祕な暗流をたゞへる領域、現實を厭離する心願の境、生ける彼岸の淨土として他民族に比し遙かに發達複雜化する日本の遊里は全く歴史の樞軸をなすものである。ことに江戸時代の燦たる文化の華は、悉く浮世繪の廓の中に咲き否すべのわが藝術文學、芝居等はこの土壤に熟せる果實に外ならなかつた。著者はその最高權威、長く大阪府廳にあつて多年公娼問題を直接に關係し、こゝに完璧に近い日本桃源の文化史を編み豊富珍奇な實例は巧みな文章と多彩な挿繪によつて興味津々として盡きず科學的探求の正確さは潤澤な藝術の美と香に浮び資料的文獻としてまた多趣な讀物として眞に卓抜なものである。

東通 京三 日本 橋目 春陽 堂 振替 東一 京七

三田村鳶魚編

四六判木版
刷極美本

□價各卷七拾錢
□送料各六錢

西鶴
輪講
好色一代女

老舞國淫 卷の
女曲主 婦の
隱遊艶美 二
家興妾形 女位

町妖調金 卷の
人華紙 七
腰潤歌 四
元女船結 男皮袖枕

石垣歌 卷の
小扇傳 六
美問屋戀受 皆
暗泊畫人化 皆
旅泊畫人化 皆
夜發附人化 皆
思謂五百羅漢

東通
橋本日
目丁三
春陽堂
振替
六一
一七
京東

三田村鳶魚著 全八卷

□價各卷七拾錢
□送料各六錢

西鶴
輪講
好色一代男

江戸物の研究に於ける當代の權威者 林若樹、山崎樂堂、三田村鳶魚、鈴木南陵、木村仙秀、鶴岡春盡樓、柴田宵曲、山中共古、水谷不倒、笹川臨風其他、一世の碩學鴻儒一堂に會し、輪講まづ好色一代男より開始さる。諸先生がその全蘊蓄を傾け以て事を深く問はれるだけは問ひ、答へられるだけは答へ、遠慮なく否定し快よく同意しながら、組上の世之助を中心に元祿、西鶴の全面容を盡さんとするが本書である。正確なる本文を併せて挿畫數多、實に文學研究史上劃期的大業績と云ふべきである。

東通
橋本日
目丁三
春陽堂
振替
六一
一七
京東

山口剛譯

四六版金泥
函入極美本

□價參圓五拾錢
□送料拾八錢

桃花扇

洪昇の長生殿傳奇と相並んで清朝戯曲の雙璧の稱ある孔尚任作の桃花扇は、前後四十四齣、これを上下二本に分ち更に序齣と附りの一齣を添へ支那戯曲の最完成せる、藝術的人生的また趣味的觀照的に無二の卓越性を有してゐる。才人佳人の數奇なる情愛苦難の祕境、壯大な時代的背景、北京の没落、——侯季の風流を經とし、明清の興亡を緯とし、烟月佳麗の景に金鼓馬塵の狀を描破する戯曲の大手腕は人生變轉の悲調切々として唏烟嘘せしめるものがある。その支那最高の傑作を斯界の最大權威山口剛氏は苦心經營の流麗朗々たる名譯出づ、現代人はこれによつて始めて桃花扇を味解し得るものと云ふべきである。

振替 東一六
堂 陽 春 橋本日・京東通
目丁三

水谷不倒著

西鶴自筆木版
總麻堅牢函入

□價參圓八拾錢
□送料拾八錢

列傳體小説史

舊刊「列傳體小説史」は江湖の熾烈なる要求に拘らず久しく絶版となり、千金を以てしても容易に手にするを得ざりしが、今般、その内容を非常な努力により根本的に改訂増補、全々面目一新せる新撰として、錦上更に花を添へた「前篇」の上梓を見る。例へば増補の主なるものとして、假名草子、浮世草紙の作者中に、烏丸光廣、朝山意林庵、三浦爲春、北村季吟等十七名を増加せること、また本邦小説が古來繪卷物の傳説を承けたことに即し、作品に缺くべからざる挿繪を九十餘種も加へ、古小説の趣味を充溢することに努め、なほ極めて貴重なる寫眞を數多挿入する等、全く完璧の態容を研究、興味の兩面に具備して遺憾なし、本書の學的價值は今更ら嘖々すべきではなく、諸家の寶典として是非座右に備へられよ！

振替 東一六
堂 陽 春 橋本日・京東通
目丁三

藤澤衛彦著

小村雪岱裝幀
木版刷金泥本

□價貳圓八拾錢
□送料拾八錢

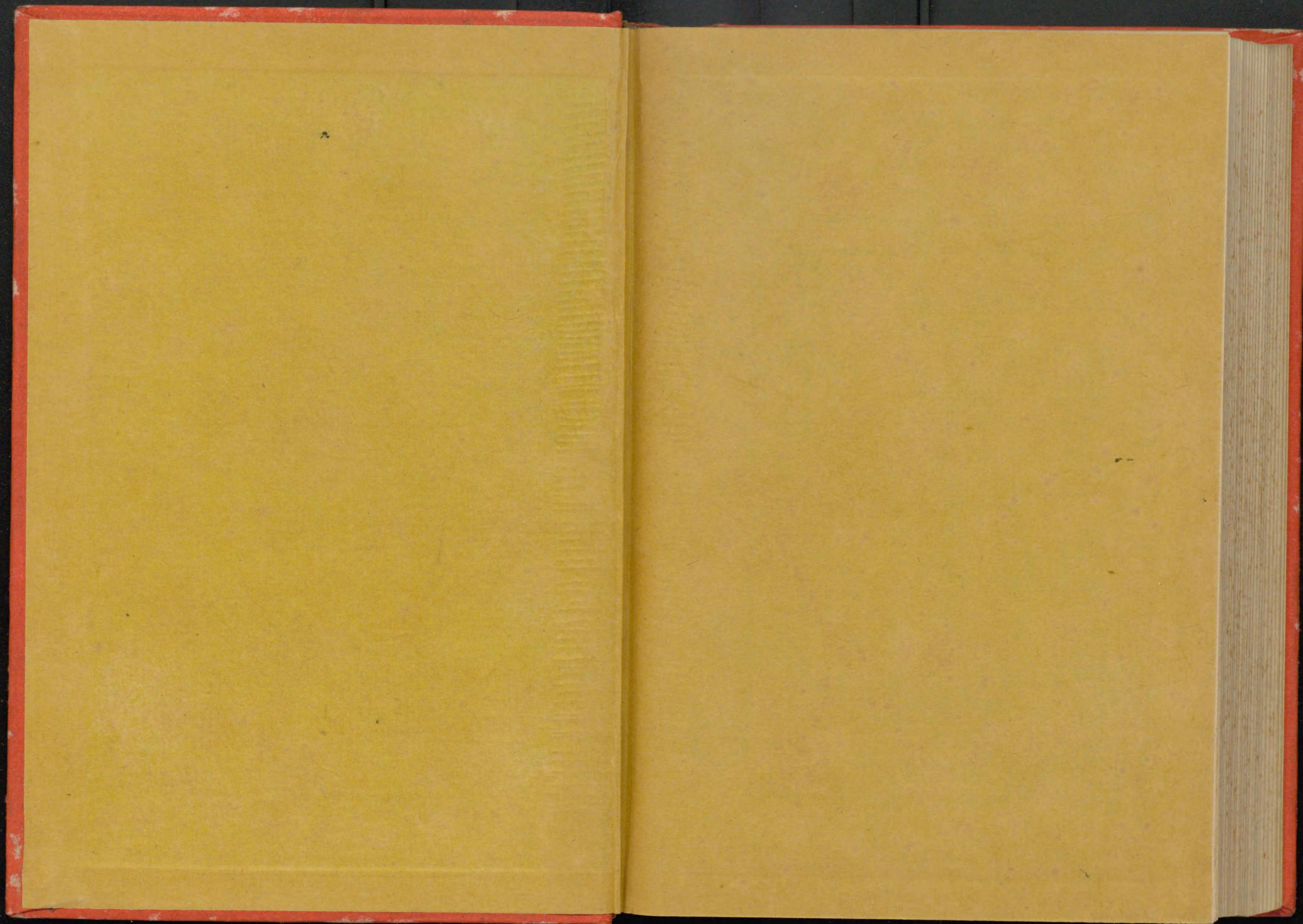
明治流行歌史

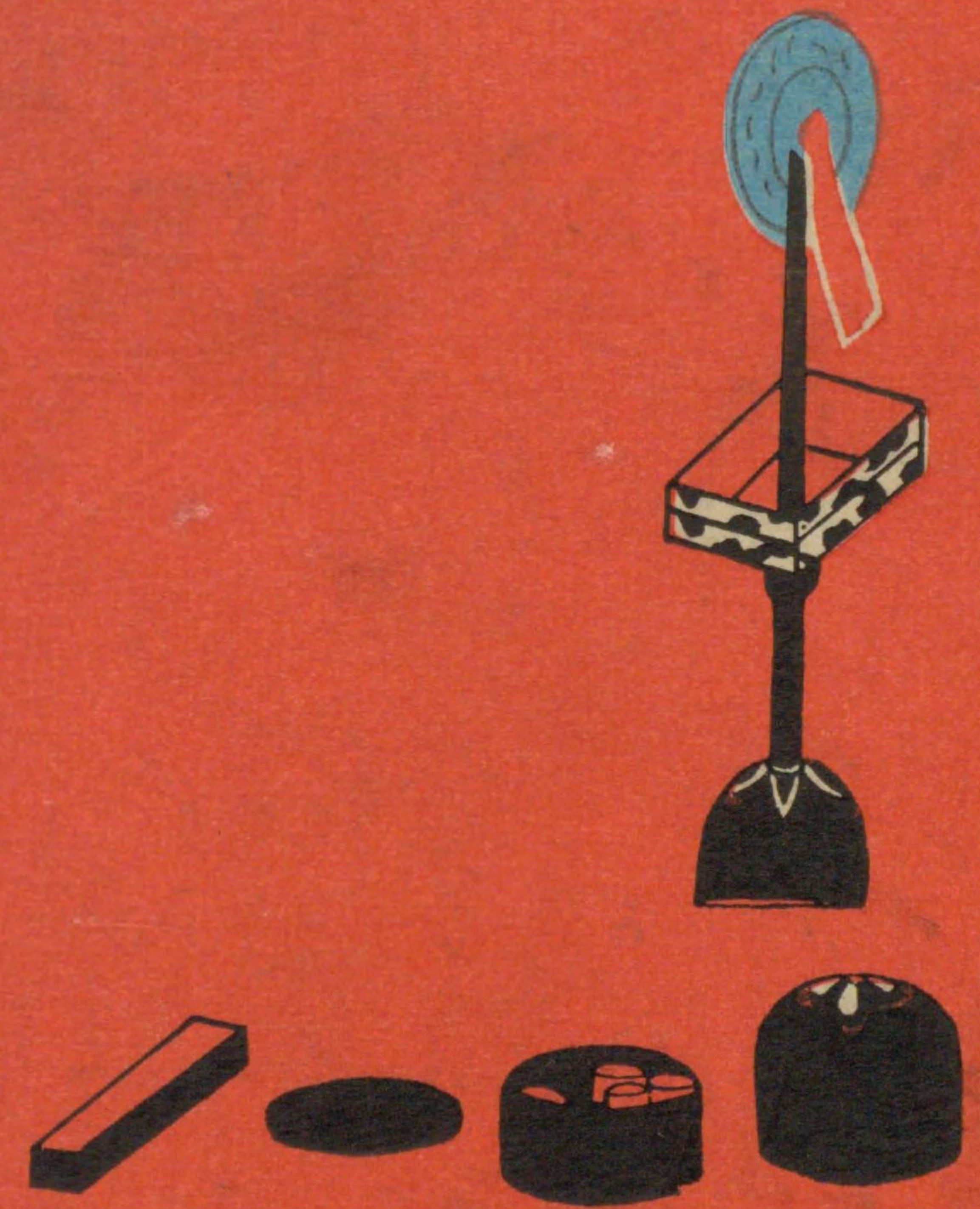
明治に於ける流行歌全部を網羅せる本書は明治社會の批判的側面史料であると共に明治風俗の鳥瞰圖であり時代思想のスケクトルである。

内容一般

雜謠賛唄時代、トコトンヤレ節、活惚、ヤートコセ、コチャエ節、榮節、オツテケレツツノペア、坊主唄、兎唄、官員唄、いつちくたつちく、おやまかチャンリン、豊年唄、へらへらへ、書生節、ホーカイ節、オツベケレ、一、だい節、書生節、ドンガラガン、かわいそ節、月琴敷へ歌、征清軍歌等々、その他數十唄をすべて時代順に列述解説し、興味實に津々。附録、挿繪、二十葉を揃へ完璧の限りを盡す。

東京・日本橋
通三丁目
春陽堂
振替
東京
六一
七



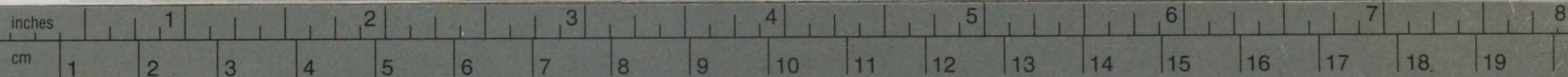
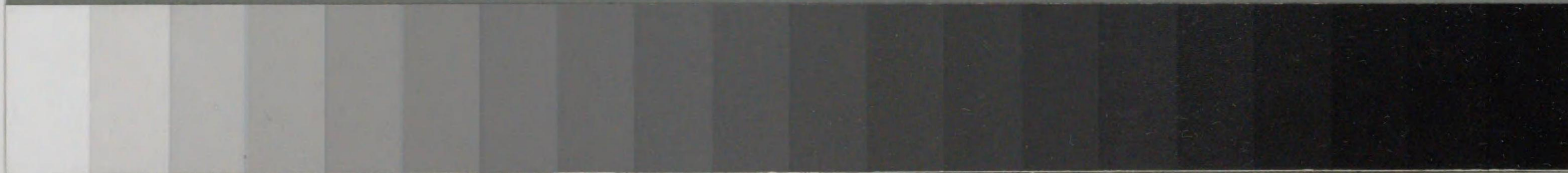


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

